～私の抱負～

みんなとまちと世代をつなぐ

【倉部（くらべ）　光世（みつよ）】

まちづくりは人づくりから。人口減少に向かうこれからは地方の時代となります。時代にあった安心して暮らせる地域をつくり、人の連携、地域間の連携を推進していくことが必要です。ちょうどいいまち菊川市だからこそ、穏やかな日常の生活を大切にしたまちづくりを市民の声と力を合わせていくことで実現することができます。その一端を担う議員としては、現場に足を運び、市民の声を実現するための政策提言をしていく議員スタイルを継続していきます。

議会は、二元代表制の一翼を担っているという意識を改めて見直す必要があります。市民の声を吸い上げ、合議の上その声を反映させ、行政運営を刷新していく役割を果たしていける議会を目指し、情報公開、市民参加、機能強化の各分野を検証し、議会改革を推進します。

住みつづけたいまち菊川市

【山下（やました）　修（おさむ）】

若者が〝子育てしやすいまちづくり〟は、菊川市の活性化、ひいては持続可能な自治体運営に向けての重要な課題です。少子化対策としての子育て支援施策の充実による、人口の自然増を目指した取り組みや、幅広い雇用機会の創出に向けて企業や工場・事業所を誘致し、移住・定住による社会増を目指すことも積極的に展開することが重要と考えます。一方、高齢化対策として、団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題に対する、地域包括ケア体制の充実が必要です。また、大震災による惨禍を繰り返すことの無いように、各種インフラの強靭化や住宅の耐震化等による減災対策に取り組みます。

これらの施策推進により〝安心して暮らせるまち、住みつづけたいまち菊川市〟の実現を目指します。

納得できる菊川市

【内田（うちだ）　隆（たかし）】

少子高齢化、人口減少、東京一極集中等日本の構造的課題は一向に変わらない中、更なる新型コロナウイルス感染症への対応等大変な時代であります。そうした中においても、末端の自治体として菊川市も市民が納得でき、住み続けてもらえるまちづくりを目指すことが大事であります。菊川市におきましても基幹産業でありました茶業の不振、それに伴う荒廃農地の増加や税の伸び悩み等による財政の硬直化等々多くの課題が山積しております。こうした状況下でありましても話し合いの機会を少しでも多く設け、一人ひとりの市民や地域に不安のない状況を作ることが重要であります。個人や地域があってこそ「住み良い菊川が実現できる」の信念の下、個人からの情報を大事にし、行政への働き掛けをして行きたいと思います。

生活弱者の立場に立って

【横山（よこやま）　隆一（りゅういち）】

新型コロナウイルス感染症により、不透明感が広がり生活困窮者が急増しています。日本経済の脆弱さが露呈したと言っても過言ではありません。元より経済優先の政治であり、弱い人の立場に立った市政が求められます。まちづくりの最大の課題である少子高齢化は急速に進み、将来予測を適格に捉えたまちづくりが大切です。安定した財政基盤が何よりも重要であり、ツケを先に延ばすことは出来ません。特に大型建設事業は慎重に対応する必要があります。限られた財源をいかに有効に使うかが問われています。菊川市議会も高い監視能力と市民の皆様から信頼される議会となっていくためには、原則である「二元代表制」をしっかり堅持し緊張感のある議会としなければなりません。〝チーム横山〟として活動して参ります。